



森のなかま

2020年 11月号

NO. 149 (継続294号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 久保 重明
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

認定NPO法人の責任と自覚をもって

(事務局長 山口 久基)

当会は、令和2年2月認定NPO法人を取得致しました。認定の有効期間は5年です。認定NPO法人は、全体で約5万のNPO法人の中から選ばれた1000団体(2%)に与えられるもので、社会貢献活動と運営状況に対して国と地方公共団体からお墨付きをいただいたものです。

認定NPO法人になりますと、寄付という形でのご支援の増加が期待され、寄付者にとっても、税金から寄付金額の最大50%の税額が控除されるというメリットがあります。

当会は、(公財)かながわトラストみどり財団様とタイアップして、主に県内の森林およびその周辺自然環境の保全と健全な森林の育成に寄与することを目的とした事業を行なっています。30年にわたる今までの活動実績が認められ、認定NPO法人となったことは、約300名の会員の大きな自信と誇りになるものであります。

今後は、会の組織・運営体制を充実させ、会活動を広くアピールして認知度を高め、当会に対して、更に沢山の方々からご支援を頂けるよう活動して参りたいと思います。

With コロナの森林インストラクターの会の活動

世界的にみてもまた国内でも新型コロナウィルス感染者数は、減少していないようです。

そのような状況下での当会インストラクター活動も色々な対策を施したうえで9月の再開から順調に滑り出しています。10月は雨にたたられた活動もありましたが、特に学校関係を中心に盛況です。県民参加の森づくりは、定員を減らしての募集になっています。普段の生活は、ステイホームで気が滅入りそうな中、当会の活動で広い場所で自然に触れあい、参加者の皆様も満足されているようです。

マスクの着用、検温、健康確認 また、インストラクターのフェイスシールド着用など今までになかった対応でご不便をおかけすることもあるかと思いますが、ご容赦いただき活動への参加よろしく願います。なお10月の様子を活動短信として次ページから掲載していますのでご覧ください。

(記 広報部 黒川 敏史④)

活動短 信

今回の掲載は R2 年 9 月 19 日-10 月 25 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

11 月(霜月)(旧暦 10 月神無月)の二十四節気

立冬 11/7 頃

暦上は、冬の始まり。立
春までが冬です。

小雪 11/22 頃

山からは、雪の便りが来る
頃。里は、紅葉まっさかり。
冬の入口です。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ
避けてください。改行等の処理に手間を要しますので
写真もあれば 1 枚添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例: 相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター (○数字: 期) 研: 研修枠

以下の本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェック
をお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

用、道具は手渡しをやめ、あらかじめ配置された場所
から参加者が待ち去ること、手洗い用の水や消毒液
の準備、昼食後のミーティングをやめて参加者にはア
ンケート用紙に意見・提案等を記入してもらうなど、こ
れまでにない対応が行われた。

間伐は 17 年生のヒノキが対象。滑車とスリングの
準備が忘れられていたが、径 10~16 cm と比較的
細目の木も多く、各班それぞれの工夫で大きなトラブ
ルもなく合計 32 本を倒して無事に終了した。

今回は受付、検温、体調確認と記録、バス乗車時
の点呼など、これまでの動きと異なる要素も入った
が、下見の段階で財団との綿密な打合せが出来たこ
とで事前に人員配置などを周知でき、受付時の混乱
もなく全員が一丸となって参加者を迎えることが出来
た。

参加者から楽しかったとの声が聞かれてホッとした
が、コロナ感染など何もないことを願っています。

(記 佐藤 武晴⑤)

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は 12 月号の
予定です。

森のめぐみ シリーズ

◆ 第 8 回県民参加の森林づくり (間伐)

日 令和 2 年 9 月 19 日 (土) 曇り

場 南足柄市塚原

参 44 名

財 豊丸課長 大木様 藤本様

看 青木看護師

イ L 佐藤武⑤ 岩田⑭ 水野⑭ 堀口⑯ 水津⑨
古舘⑬ 中澤⑯ 佐藤恭① 辻村⑨ 大友⑯
山崎⑦ 久保⑧ 西出⑫ 齊藤⑧ 内野⑨
石川⑫ 計 16 名

新型コロナウイルスの影響で 4 月以降 8 月末まで活
動が中止となっていたが、感染拡大予防対策の下
で今年度最初の県民参加の森林づくり活動を実施し
た。

参加者募集は 100 人から 50 人に縮小され、三密
回避、マスク・フェイスシールドの着用、ソーシャルデ
ィスタンスの確保など基本的な対策と共に、参加者全
員の検温実施と体調の確認、バス座席は窓側のみ使

◆ 第 10 回県民参加の森林づくり (枝打)

日 令和 2 年 10 月 7 日 (水) 曇り

場 箱根町畑宿(二子山県有林)

参 46 名

財 内田様 大木様 藤本様

イ L 内野⑨ 滝澤⑤ 野牛⑧ 篠原⑨ 上宮田⑪
大原⑬ 古舘⑬ 鈴木⑭ 水野⑭ 竹内⑮
岡村⑯ 久保田⑯ 武田⑯

安パト 松永⑪ 石川⑫

集合地小田原駅の空は怪しい雲行きでした。しかし
参加者は続々と集まり、新型コロナ対策の検温・問診
も無事通過して 46 名が揃いました。初めての参加者
が 20 名近くいます。バス内は感染防止のため、最小
限の説明だけなので居眠りには最適(笑)。9 時頃には
作業場所の二子山県有林に到着しました。

オリエンテーションで、県自然環境保全センターの方から、枝打対象のスギは、七年生の無花粉スギと説明がありました。無花粉スギと言えば神奈川県が開発した「名産品！」で大事にしなければ。内野・総括リーダーからも、まだ若いスギなので柔らかく、気をつけて枝打ちして下さい、との注意がありました。

早速現場に入って班ごとに枝打の見本を行います。柔らかい幹を傷つけないように、枝座を残して鋸で切るよう説明し、枝打後のシカ対策として、落とした枝を立てて囲み、長い枝を紐代わりに巻き付ける方法を実演しました。おっかなびっくりだった初めての方も、直ぐに慣れてきたようです。特に人気だったのが「腹巻きみたい」なシカ対策。「スギの皮を食べないように」と巻いたスギに枝を足していった、「生け花だ!」と喜んでいきます。初参加でご主人が目の不自由なご夫婦にも、終了後「こんなに楽しいとは思わなかった」と大変喜んで頂きました。今度は植樹にも挑戦したいそうです。こうした喜びの声は、インストラクター冥利に尽きます。夢中でやっている内に、あっという間に終了時間となりました。



落とした枝で幹を巻いてシカ対策

もう少しやりたいとの声が多かったのですが、やむを得ません。箱根高原ホテルに移動して昼食を摂り終わると、雨がポツリポツリ降り出しました。おお待ちしてくれたのか、というタイミングでした。

(記 竹内 明彦⑬ 写真 内野 ミドリ⑨)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 横浜市立高舟台小学校 森林学習支援 間伐体験

- 日 令和2年10月14日(水) 10:30~12:30 曇り
場 相模原市緑区 長竹継成分収林
参 先生7名、児童73名、計80名
財 内田様、古舘様
イ L 西出⑫、佐藤⑤、小野⑦、内野⑨、松山⑩、松本⑪、松石⑬、牧石⑭、堀口⑯

もともと9月24日実施予定でしたが、台風のために延期となりました。この日は雲が低く垂れ込めて、今にも降り出しそうな空模様でしたが、幸い降雨はなく、皆さん力を合わせて、樹高5m程のヒノキを間伐して、森林整備に汗を流しました。

到着が予定より30分程遅れましたが、ヘルメットなどの道具を装着してから、森の中を10分程歩いて現場に向かいました。作業開始前に、森の学習(森の働き、間伐の意義)をして、インストラクターの指示の下、作業を開始しました。

まず、選木をして、ロープを掛け、いよいよ大鋸を使って木に受け口、追い口を入れます。はじめは思いう様に大鋸が引けませんが、その内、上手に使えるようになり、伐倒の準備が整ったら、みんなで力を合わせてロープを引ました。大きな音がして木が倒れると、皆さんから歓声が上がりました。

森が少し明るくなり、下草、低木の成長を促して、森の機能(保水機能など)が促進されました。時間不足で、コースター作りはあきらめざるを得ませんでしたが、皆さん、活動に満足した様子で現場を離れました。(記 西出 健一⑫)



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会のホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

◆ 横浜市立能見台南小学校 間伐体験

日 令和2年 10 月 17 日(土)10:00～12:00 雨
 場 足柄ふれあいの村
 参 131 名(5 年生児童 117 名 教師等 14 名)
 財 内田氏、藤本氏
 イ L 牧石⑭ 千葉④ 佐藤⑤ 滝澤⑤
 小野⑦ 小沢⑨ 上宮田⑪ 松本⑪ 西出⑫
 岩田⑭ 黒川⑭ 小松⑭ 大友⑯

当日は少し寒い秋時雨になり、21世紀の森・風切り水源林での間伐体験は、足柄ふれあいの村での木工工作(マイはしづくり)にプログラム変更となった。

コロナ渦での体験学習はクラス別に 3 部屋に分散して行われた。児童や先生は全員マスクを着用。インストラクターはフェイスシールド、マスク、ハンズフリースピカーを装着した物々しい格好で児童達に面した。

1 cm 角の木と小刀が配られ、木工工作開始、担当した第 12 班(男女 9 名)児童全員が小刀を使うのは



初めて。最初は小刀の扱いに慣れていないため表面を撫でるように削る子が多く、思うようにならないので作業に集中できない様子だった。個別に小刀の持ち方や刃の角度調整など自分で最適な削り方を探ってもらった。コツを掴むと驚きの集中力を発揮し、世界に一つだけのマイはしを作りあげていた。



作業終了後、今回体験が出来なかった森林の話をした。児童達に私たちと同じように森を守る活動に参加して欲しいと言うと、「林業の仕事に興味を持った」、「おいしい水を飲むためには美しい森を作ることが大切ことを知った」など、嬉しい感想を聞くことが出来た。(記 大友 博道⑯ 写真 牧石 稔⑭)

◆ 横浜市立東中田小学校 間伐体験

日 令和2年 10 月 19 日(月) 曇り
 場 長竹承継分収林
 参 105 名(5 年生児童 98 名 教師 7 名)
 財 内田様 藤本様
 イ L 西出⑫ 小野⑦ 小沢⑨ 高橋⑨ 松山⑩
 松本⑪ 星野⑬ 牧石⑭
 竹内⑮ 小林⑯

前日にたっぷりと降っていた雨は、幸いなことに止みましたが、作業用オレンジベストが有り難く感じられる肌寒さです。葦尾根ふれあい広場で待機していると、バス 3 台に分乗した生徒達が到着。子供達の元気な声と笑顔を見ると、暖まりますね。9 人のインストラクター毎に約 10 人の班に分かれ、早速、長竹承継分収林のヒノキ林に入ります。

班と班の間は距離が有り、近接作業にならないので安心できました。作業時間は 1 時間なので、子供達に倒しやすいヒノキを、選木して貰いますが、みんな大胆にも太い木を狙いますので、冷や汗。何とか細い木で我慢してもらいます(笑)。



ロープをかけ、先ず受け口を切ってもらいます。ほとんどの生徒は初ノコギリですから、挽き方も教えます。斜め切りは、実演を見てもらいました。追い口は 6 人が少しずつ交代しながら切りました。残りの 5 人はロープに付きます。ツルを残して十分切れたところでロープを引きますが、あらら、チョット掛かり木です。しかし全員でロープに取り付いて引くとやがて、ドシ〜ンと見事に倒れました！思わずみんなで拍手！その嬉しそうな顔。



後は枝払いだけ、と安心していたら、「ヒルだ！」の悲鳴。2～3 人の靴にヒルがしがみついていた。用意の塩水をかけて退治しましたが、次から次へと悲鳴が上がり、暫くは作業中断。ようやく落ち着いて枝を払い終わったところで、時間切れ寸前。玉切り、ツル落としを大急ぎでやって、やっと完成しました。でも別れ際、「倒れた地響きが凄かった」と、口々に言い合って、みんな満足気な表情をしてくれたので、一安心でした。

(記 竹内明彦⑮ 写真 松本 保⑪)

◆ 第 12 回 県民参加の森林づくり (竹林整備)

日 令和2年10月25日(日)晴れ
場 県立21世紀の森
参 24名
財 豊丸課長、大木様
看 青木看護師
スタッフ 21世紀の森 (株)アグサ 碓井所長
イ L 水津⑨ 吉田⑪ 柏倉④ 宇田川⑬ 石川⑫
 大見⑮ 古舘⑬ 久保⑧ 角石⑮

前週とは打って変わって晴天に恵まれ、絶好の活動日和になりました。

除伐の予定でしたが、重要度の高さから、イノシシによる掘り返し等で荒れ放題になっていた真竹展示林の整備に変更になりました。最初に電気柵の設置効果が見られる孟宗竹林を見学してから、戻って坂を下り、木橋を渡って竹林に入りました。太くはないが密に繁った竹林を伐り進み、周りが広がった頃、「明るくなったねー。」という参加者の声が上がりました。

展望所のある山の斜面には、最近問題になっている「ナラ枯れ」も見えるようになりました。道と思われた場所を先へ伐り進んでいくと左へ折り返すあたりで、正しい道が右側に並行していることが解りました。これも皆伐の成果です。

帰路は、今日の活動ですっかり広がった活動場所を見下ろしながら山道を上がりました。ここで



作業後の風景

は、「今後タワーヤーダー等の高性能林業機械を導入して森林整備が進められる予定だ」と財団・大木様から説明があり、その先に広がる成長の森の間を通過して、集合場所に戻りました。青木看護師のお世話になる方もなく、無事作業を終えることができました。

今年度の県民参加の森林づくり活動は、コロナ禍で、遅れて9月に開始されましたが、これまでに2回雨天中止になっていることから、2月に小竹と塚原で追加が計画されている旨、財団・大木様から説明がありました。

(記 写真 石川 裕一⑫)

◆ 相模原市立 津久井中央小学校 間伐体験 事前授業

日 令和2年10月20日(火)
場 津久井中央小学校 相模原市緑区
参 担任教師及び生徒19名
イ L 小野⑦

10月27日にやませみ及び大日野原林地にて予定の間伐体験学習に関して事前授業を同校で実施した。

授業では一方通行に陥らない様に適宜双方からの質問を交え、森林講話の画像やグラフ等を使って生徒さんが飽きない事を心掛けた。森林の働き、日本の林業の現状と課題・森林を作り育てるサイクル等の項目にて授業開始。特に林業は苗木を植えてから伐採までに50年以上の長い年月を要する仕事で「50年以上でやっとお金になる」事について皆さんにお米や野菜等と比べてその長いサイクルを理解頂いた。

また立地条件や作業者の高齢化、安い外国産材の輸入などで日本の林業が衰退している現状を説明。間伐作業の説明では黒板で伐倒作業の進め方を解説。間伐作業が大変危険な作業である事を強調して、当日は我々の注意事項をしっかり守り安全で楽しい体験日となる事をお願いして授業終了。

拙い教師役でしたが活発な発言で明るく元気な生徒さん方との45分間は私にとっても実りあるひとときでした。(記 小野 幸広⑦)

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

9 月から再開しています。
インストラクターがお待ちしています。
なお 12 月から 2 月までは冬季
休止となります。

現在の水源林の様子は、下記の
「やどりき水源林ニュース」をご覧ください。

昨年の台風の被害復旧のため工
事が行われており、立ち入りができ
ない箇所があります。お越しになる
際は、下記問合せ先か、かながわ
森林インストラクターの会にお問い
合わせください。

申込先

かながわ森林インストラクターの会

k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

「やどりき水源林ニュース」

[http://www.forest-
kanagawa.jp/4field.html#field02](http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02)

●問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。
(ホームページ) [http://www.forest-
kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01](http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01)
(HP 担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: cherril@gk9.so-net.ne.jp

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

Mail:

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】阿藤 寿孝

Tel: 045-433-4413

Mail: hisa-ato2@22.netyou.jp

原稿は随時受け付けています。

編集後記

★最近、相次ぐクマ出没のニュース
をよく目にします。丹精込めた農作
物を荒らされてしまった農家さんの
気持ちを察するとやりきれません。
でも、山の環境が変わってきている
ことも、もっと報道に付け足して欲し
いです。森の動物たちが心配で
す。(笠原)

★米国・欧州では、まだまだコロナ
が猛威を振るっています。日本で
も、東京、神奈川って減ってません
よね。

でも、マスコミではあたかも「コロ
ナってもうお終い」って方向で進ん
でる。政治ってそんなもんだったの
かなあ? 「先憂後楽」は過去の言
葉?? (吉田)

★「小網代の森」の引橋口がスズメ
バチの巣のため閉鎖になっていま
した。

スズメバチの女王は冬眠するため
冬が来る前に巣から抜け出し巣の
中は空になるそうで、その間に巣を
駆除するとよいそうです。

(阿藤)

★新型コロナ禍で始まった今年。
もう 11 月。新型コロナは増長し
ぎの都会人間への天の声かも。
With コロナで生活習慣も改め原点
に帰りましょう! (松本)

★間伐体験やハイキング学習な
ど、学校支援活動が目白押しで、
横浜市立小学校の意欲的な試み
には驚かされます。晩秋の林内に
響く子供達の歓声は、コロナ禍を吹
き飛ばす明るさに溢れていました。
(竹内)

★フェイスシールドをして、間伐体験
をしている小学生の姿は、どこか異星
の作業のようで微笑ましいですね。
With コロナの作業は、当分続きそう
です。(黒川)

やどりき水源林の秋

やどりき水源林ニュースからの情報です。
現在、水源林では、
たくさんの木の実・秋の花が見られます。

水源林ニュースには、木の実や花の写真と
今月号には周遊歩道 B の紹介が載っていま
す。



周遊歩道 B

[http://www.forest-
kanagawa.jp/4field.html#field02](http://www.forest-kanagawa.jp/4field.html#field02)

をご覧ください。

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読を
ご希望の方は、郵便局備付け
の郵便振替を利用してお申し
込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの
会

宛まで 2000 円をお振込み下
さい。振替用紙には、必ず、住
所、氏名を明記して下さい。振
替用紙到着の翌月号から
12 回/1 年間お届け致します。

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 加藤優美

阿藤寿孝 竹内明彦 柳澤千恵美

支援: 大原正志 江頭淑子 小林照夫 武田昭典 中澤良夫